

## b-16) アオバズク

### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>6)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

### ii) 生態

本種は、夏鳥として全国的に渡来する<sup>15)</sup>。佐賀県内では、唐津市松浦川、虹の松原<sup>14)</sup>など、県内各地<sup>6)</sup>における記録がある。佐賀県では夏鳥<sup>13)</sup>とされている。

低地から低山帯の大きい樹木のある樹林にすみ、巨木があれば公園や社寺林にもすみつく<sup>12)</sup>。落葉広葉樹林、針葉樹林、針広混交林等どんな林でも良いが、常緑広葉樹林を特に好む<sup>12)</sup>。主としてセミ、タガメ、カミキリムシ、トンボ類等の大型昆虫を、他に小鳥やコウモリ、カエル等も食べる<sup>12)</sup>。繁殖期は5月～8月<sup>12)</sup>である。一夫一妻で繁殖する<sup>12)</sup>。巣は洞穴借用型で樹洞を使うことが多い<sup>12)</sup>。ときには、石積みや材木積みの隙間などに作ったり、巣箱を利用したりする<sup>12)</sup>。

### iii) 調査結果

本種は、平成14年度及び15年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域で合計540例が確認された。また、平成11年度の環境巡視において2例が確認された記録がある。確認されている多くの行動は、繁殖期における飛翔、採餌等であり、2カ所で営巣が確認され、1カ所で定着が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、確認された営巣地とその周辺の環境を繁殖に利用していると考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

## b-17) フクロウ

### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>6)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

### ii) 生態

本種は、北海道から本州、四国、九州にかけて見られ、普通にいる留鳥である<sup>12)</sup>。佐賀県内では、県内各地<sup>6)</sup>における記録がある。佐賀県では留鳥<sup>13)</sup>とされている。

低地、低山帯から亜高山帯にかけて、いろいろなタイプの樹林にすみ、特に大きい樹木のある落葉広葉樹林や針広混交林を好む<sup>12)</sup>。濃密に茂った針葉樹林でも見られる<sup>12)</sup>。ネズミ類、小型哺乳類及び鳥類<sup>12)</sup>を食べており、とくに匍匐潜行型のネズミ類やモモンガなど、活動時間帯が合ってとりやすいものが多い<sup>12)</sup>。繁殖期は3月～5月頃<sup>12)</sup>である。巣は、樹洞やカラス等の他種の古巣や、時には壁の穴や地上に作る洞穴借用型で、巣箱も使用する<sup>12)</sup>。巣材は使わないか、枯れ葉を敷く程度である<sup>12)</sup>。

### iii) 調査結果

本種は、平成14年度及び15年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域で合計145例が確認された。また、平成15年度の環境巡視において1例が確認された記録がある。確認例のほとんどは、2月～3月の繁殖期における鳴き交わし、飛翔、止まり等であった。本種は、樹洞等に営巣することが知られているが、スギ・ヒノキ植林が卓越する当該地域においては、営巣に適した樹洞を有する広葉樹の大木は限られている。

生態情報及び確認状況から、本種は、確認地点付近の樹林に生息し、その周辺の耕作地や林縁部等の開けた環境でネズミ類等の餌を捕食していると考えられる。また、少なくとも2つがい以上が対象事業実施区域及びその周辺の区域

で繁殖していると考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

#### b-18) ヨタカ

##### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>6)</sup>に絶滅危惧II類種として掲載されている。

##### ii) 生態

本種は、日本では、北海道から九州までの各地に夏鳥として渡来し、繁殖する<sup>10)</sup>。4月中旬～5月上旬にかけて現れ、9月下旬～11月上旬頃までいる<sup>17)</sup>。佐賀県内では、黒髪山系<sup>6)</sup>における記録がある。

低山から山地の明るい林や草原に生息する<sup>10)</sup>。樹上性で、単独でいることが多い<sup>17)</sup>。夕方から夜にかけて草原や林の上空を飛び回り、飛んでいるガ等の昆虫を捕える<sup>10)</sup>。昼間は樹木の太い横枝上に枝と平行にとまって休む<sup>10)</sup>。

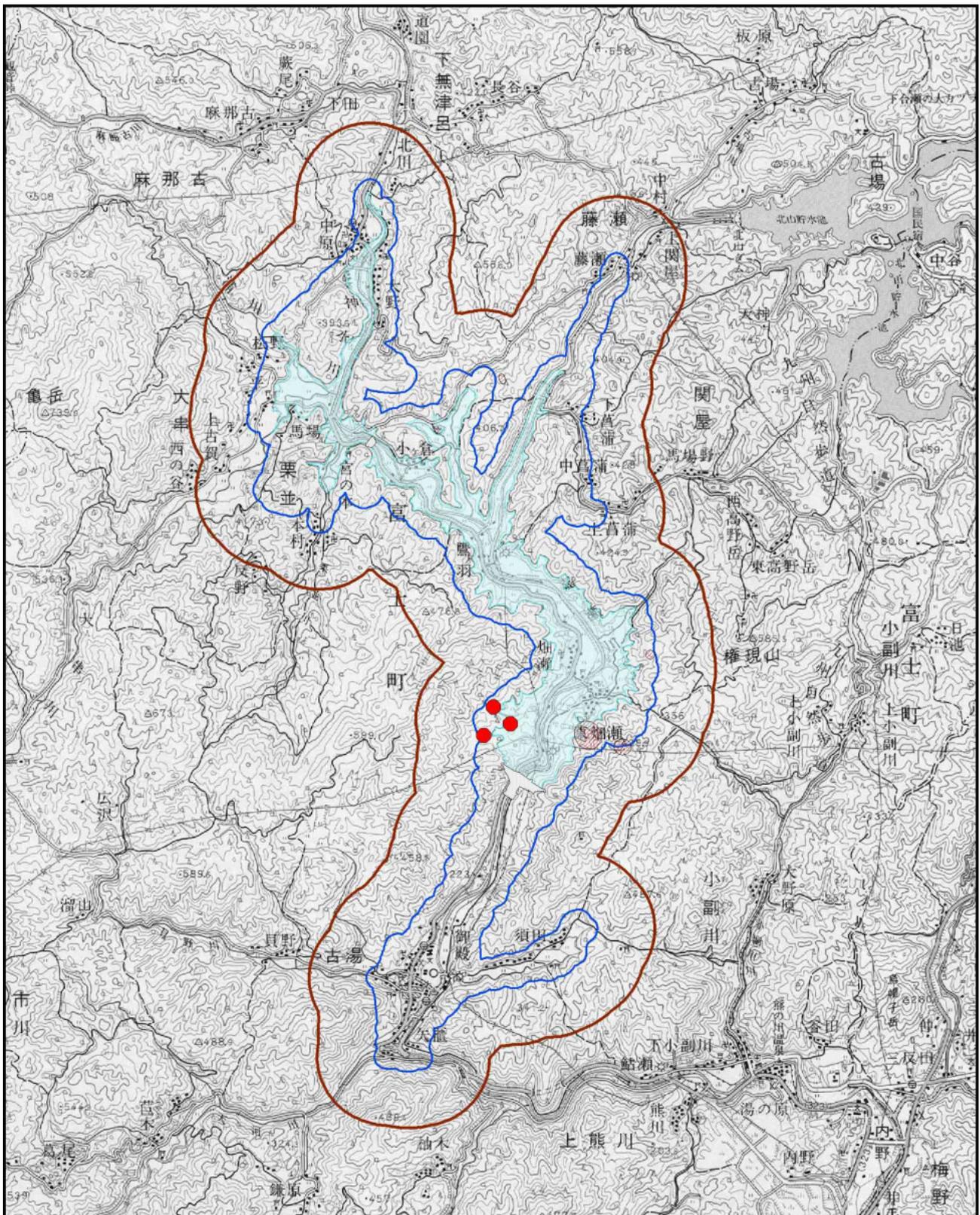
##### iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-4(8)に示す。

本種は、重要な種を対象とした平成15年度の調査において、大野地区1地点、関屋地区1地点、榎国有林内2地点、畑瀬地区3地点、合計7地点で鳴き声が確認された。

畑瀬地区の西畑瀬周辺では、本種の繁殖期である5月～7月にかけて毎月確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、明るい樹林や草地で繁殖していると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-   \* } : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-4(8)  
ヨタカ確認地点

\*: この範囲内で確認した記録がある。

## b-19) ヤマセミ

### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>6)</sup>に絶滅危惧Ⅰ類種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

### ii) 生態

本種は、北海道から九州の各地で留鳥、あるいは漂鳥として生息する<sup>12)</sup>。佐賀県内では、鳥栖市石谷山<sup>14)</sup>、嘉瀬川水系、巖木川、鹿島市中川、伊万里市南波多、城原川等<sup>6)</sup>における記録がある。佐賀県では留鳥<sup>13)</sup>とされている。

山地の溪流や湖沼に生息する<sup>12)</sup>。河川では上流部の渓谷にすみ、中流以下はまれである<sup>12)</sup>。主に川魚を食べる<sup>12)</sup>。5cm～20cm ぐらいのイワナ、ヤマメ、ウグイ、フナ等を食べるが、カエル、サワガニ、昆虫も捕える<sup>12)</sup>。繁殖期は3月～8月、年に1回の繁殖が普通<sup>12)</sup>である。川沿いまたは水から少し離れた土の壁に穴を掘って中に産卵する<sup>15)</sup>。雌雄ともに掘る<sup>15)</sup>。巣穴の入り口は直径8.3cm～15cm<sup>15)</sup>である。

### iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-4(9)に示す。

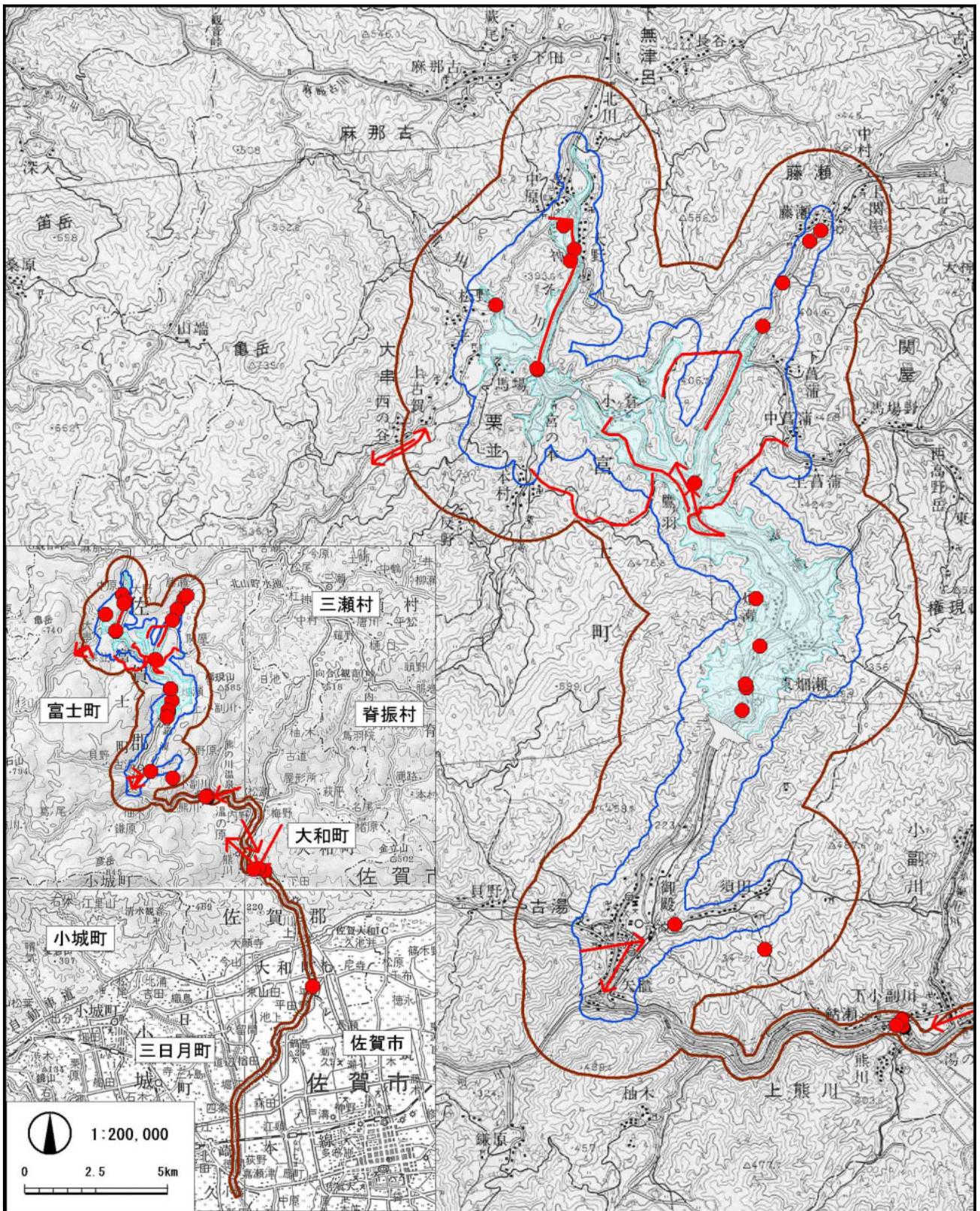
本種は、平成5年度、9年度、13年度及び14年度の調査において、嘉瀬川の川上川第三発電所周辺1地点、川上川第二ダム付近1地点、貝野川合流点付近1地点、矢櫃集落周辺1地点、鮎の瀬橋下流4地点、川上第五ダム下流6地点、神水川の大野集落周辺3地点、神水川橋付近2地点、鷹ノ羽橋付近2地点、浦川の浦川橋付近1地点、大串川の西の谷集落周辺2地点、合計24地点で生息が確認された。また、平成10年度、11年度及び15年度の環境巡視において、畑瀬地区の西畑瀬西の斜面1地点、小副川地区の須田集落南の斜面1地点、嘉瀬川の新小関橋下流2地点、鮎の瀬ダム上流1地点及び下流1地点、川上川

第三ダム下流 1 地点、畑瀬橋付近 1 地点、川上川第三発電所周辺 1 地点、須田川の須田集落周辺 1 地点、合計 10 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、昭和 60 年度、61 年度、平成 5 年度及び 6 年度の調査において、嘉瀬川、神水川沿い等の経路上で、平成 8 年度の環境巡視において、畑瀬発電所上方、畑瀬橋上流で確認された記録がある。

確認地点の環境は、嘉瀬川、浦川、神水川等の河川であり、このうち神水川の中原上流では営巣が確認され、嘉瀬川の熊川から八反原では採餌行動が確認された。

なお、平成 14 年度に実施した北山ダムの調査において、本種がダム貯水池を利用していることが確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、嘉瀬川の上流部を採餌場や繁殖地として利用し、広い範囲に生息していると考えられる。



- 凡 例
-  : ダム堤体
  -  : 副ダム
  -  : 貯水予定区域
  -  : 対象事業実施区域
  -  : 調査地域

 } : 確認地点

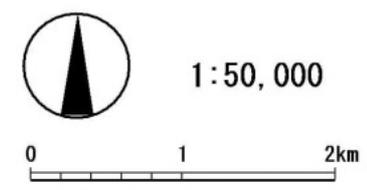


図4.1.5-4(9)  
ヤマセミ確認地点

\*: この経路内で確認した記録がある。

## b-20) アカショウビン

### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>6)</sup>に絶滅危惧II類種として掲載されている。

### ii) 生態

本種は、夏鳥として日本に渡来<sup>18)</sup>する。佐賀県内では、多良岳山系、脊振山系<sup>14)</sup>、黒髪山系、経ヶ岳、相知町伊岐佐<sup>6)</sup>における記録がある。佐賀県では旅鳥<sup>13)</sup>、あるいは夏鳥<sup>6)</sup>とされるが、北部九州での繁殖は少ない<sup>6)</sup>とされる。

低地や低山帯の常緑広葉樹林、落葉広葉樹林等にすみ、樹林内の小さい溪流沿い、あるいは小さい湖沼の縁で生活する<sup>12)</sup>。小魚、サワガニ、カエル、オタマジャクシ等<sup>12)</sup>各種の昆虫等様々な小動物を捕る<sup>10)</sup>。繁殖期は5月~7月、一夫一妻で繁殖する<sup>12)</sup>。巣は樹洞や崖の洞穴を使う洞穴借用型で、朽木や土壁等に自分で掘ることもある<sup>12)</sup>。洞穴さえあれば、人家も利用する<sup>12)</sup>。1巣卵数は5個~6個<sup>12)</sup>である。

### iii) 調査結果

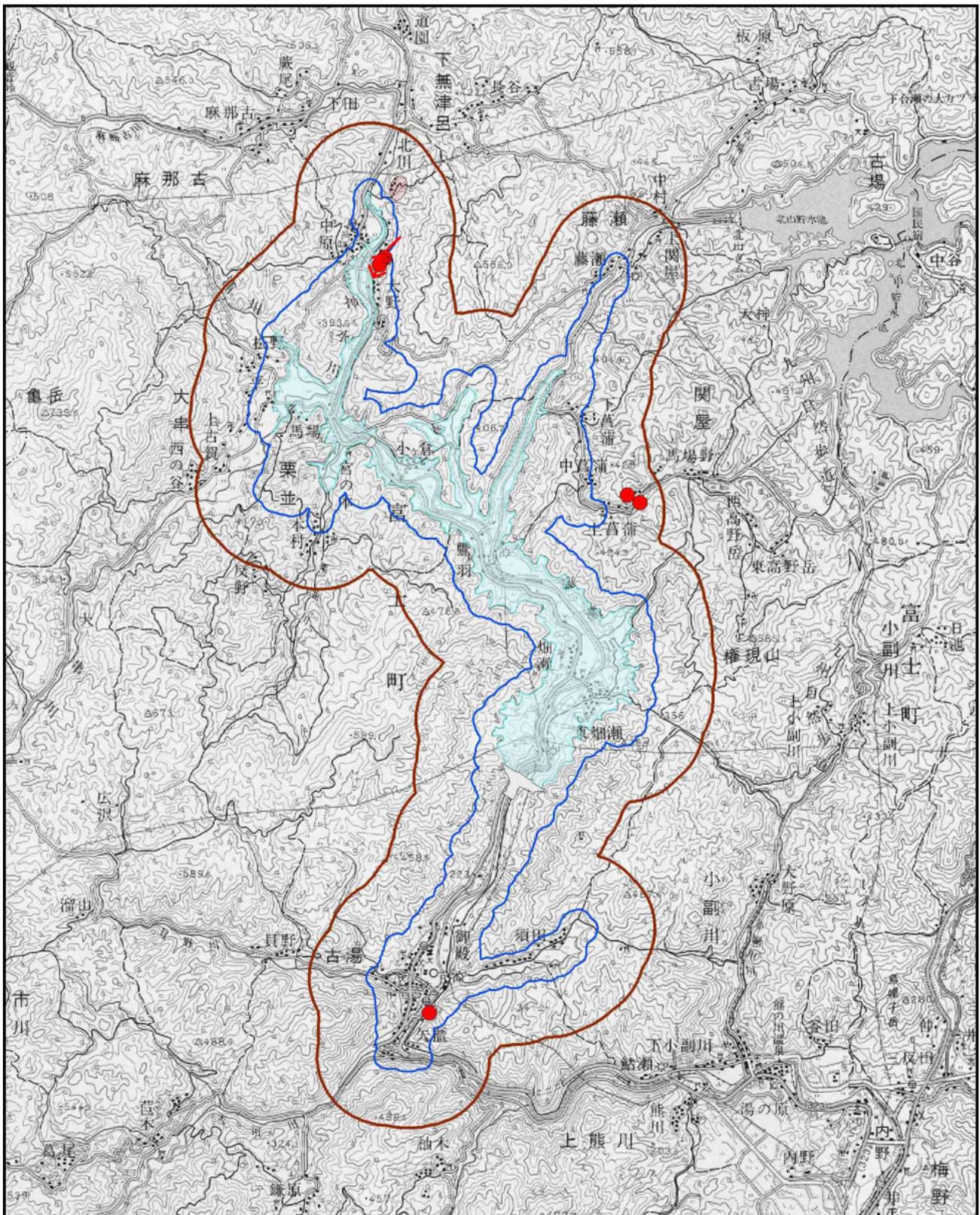
調査による確認地点を図4.1.5-4(10)に示す。

本種は、平成14年度及び15年度の調査において、大野地区の大野集落周辺4地点、関屋地区の上菖蒲集落周辺2地点、嘉瀬川の宮の淵橋付近1地点、合計7地点で生息が確認された。また、平成15年度の調査において、北川集落南周辺及び大野集落周辺で飛翔及び鳴き声が確認された。

確認地点の環境は、河川沿いのスギ・ヒノキ植林等の樹林であった。

なお、生態系の予測のために平成14年度に実施した北山ダム<sup>1)</sup>の調査において、本種がダム貯水池の湖岸の樹林を利用していることも確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、確認地点付近の常緑広葉樹林及び落葉広葉樹林に生息し、周辺の河川や沢を採餌場として利用していると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-  } : 確認地点
-  }



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-4(10)  
アカショウビン確認地点

## b-21) カワセミ

### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 2 鳥類(環境省 2002 年 8 月)」<sup>2)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>6)</sup>に掲載されていないが、「県内で希少」という専門家の指摘により重要な種とした。

### ii) 生態

本種は、本州以南では留鳥として全国的に繁殖分布する<sup>12)</sup>。佐賀県内では、鹿島市新籠(有明海)、鳥栖市石谷山、唐津市松浦川、虹の松原、松浦川河口、鏡山<sup>14)</sup>における記録がある。佐賀県では留鳥<sup>13)</sup>とされる。

標高 900m ぐらいまでの河川、湖沼、湿地、小川、用水等の水辺に生息し、ときには海岸や島嶼に生息することもある<sup>12)</sup>。主に川魚を食べる<sup>12)</sup>。3cm ~ 7cm ぐらいのウグイ、オイカワを食べるが、ザリガニ、エビ、カエル等も食べる<sup>12)</sup>。繁殖期は 3 月 ~ 8 月<sup>12)</sup>である。年に 2 回繁殖することもある<sup>12)</sup>。水辺の土の崖に、嘴を使って 50cm ~ 100cm ぐらいの深さの巣穴を掘る<sup>10)</sup>。水辺からかなり離れた崖を利用することもある<sup>10)</sup>。

### iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(11)に示す。

本種は、平成 6 年度、9 年度、11 年度、13 年度及び 14 年度の調査において、嘉瀬川の新小関橋上流 2 地点及び下流 1 地点、畑瀬橋付近 3 地点、川上川第二ダム付近 1 地点及び下流 1 地点、御殿集落周辺 1 地点、中の橋付近 1 地点、湯の原集落周辺 3 地点、湯の里橋付近 1 地点、川上第五ダム下流 7 地点、八反原集落周辺 3 地点、川上頭首工上流 1 地点及び下流 1 地点、嘉瀬橋上流 3 地点、神水川の中原橋付近 6 地点、小ヶ倉橋付近 1 地点、栗並川合流点付近 2 地点、浦川の浦川橋付近 1 地点、合計 39 地点で生息が確認された。また、平成 11 年

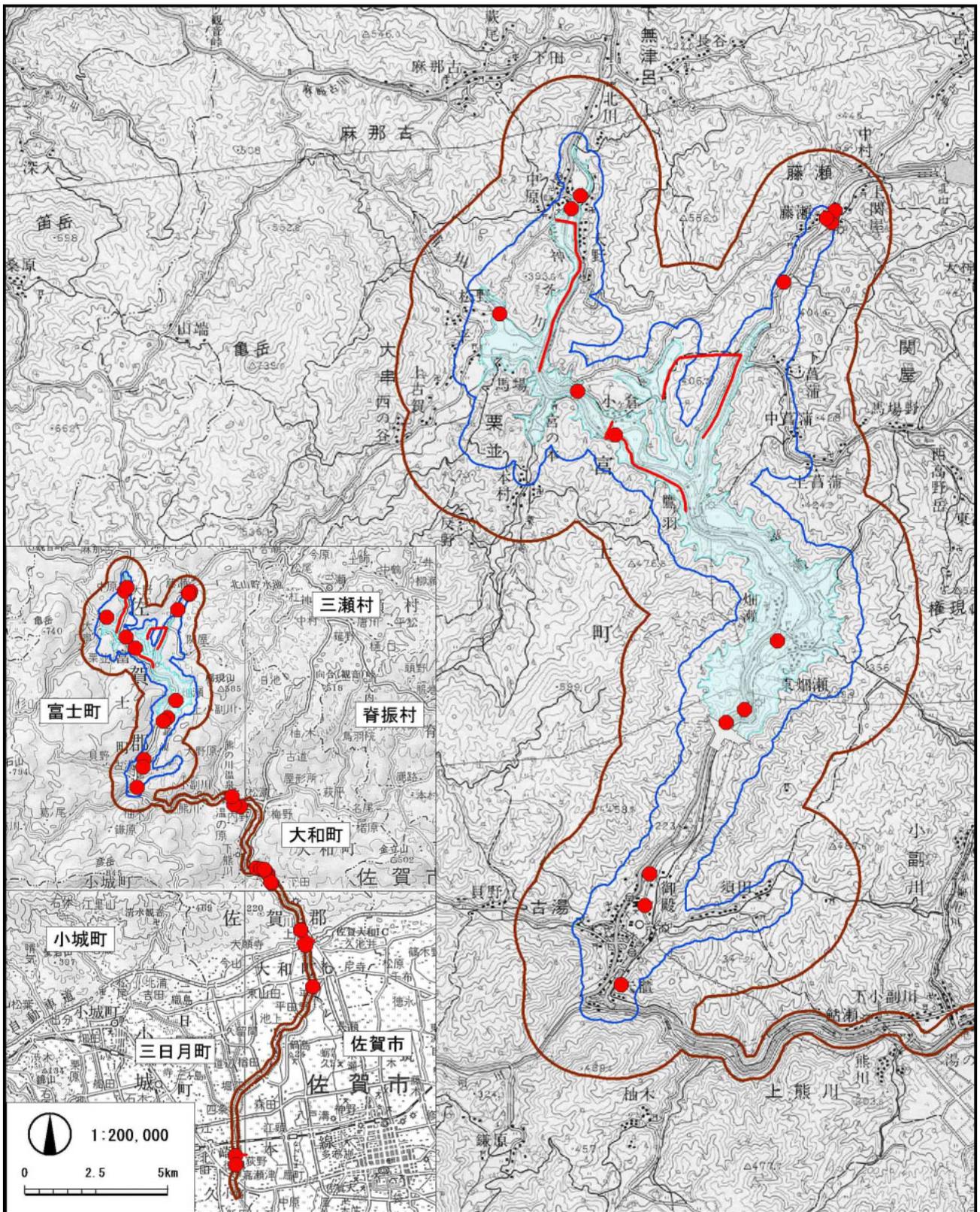
度及び 15 年度の環境巡視において、小副川地区の矢櫃集落北の斜面 1 地点、嘉瀬川の鮎の瀬ダム上流 1 地点、合計 2 地点で確認された記録がある。

このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、昭和 61 年度、平成 5 年度及び 6 年度の調査において嘉瀬川、神水川沿いの経路上等で、7 年度の環境巡視において、確認された記録がある。

確認地点の環境は、嘉瀬川、浦川、神水川等の河川沿いであり、嘉瀬川では下流域から上流域までの広い範囲で確認された。

なお、平成 14 年度に実施した北山ダムの調査において、本種がダム貯水池を利用していることが確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、河川沿いを採餌場や繁殖地として利用し、広い範囲に生息していると考えられる。



- 凡 例
- : ダム堤体
  - : 貯水予定区域
  - : 対象事業実施区域
  - : 確認地点
  - : 調査地域

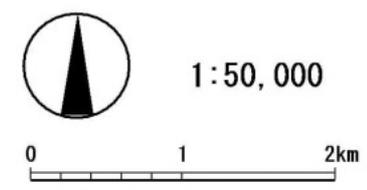


図4.1.5-4(11)  
カワセミ確認地点

\*: この経路内で確認した記録がある。